

ユダヤのハヌカ初体験！

これを書いている12月には、ワシントンDCの街はクリスマスデコレーションで煌めいています。しかし、それだけではありません。世界の多様な文化が混在するアメリカ合衆国では最近、様々な宗教や地域の祭日がクローズアップされ、デコレーションなどもされるようになりました。代表的なところは、ユダヤ教の祭り「ハヌカ」とアフリカン・アメリカンの祭り「クワンザ」。学校では一般に、こうした祭りのための欠席は認められていますし、それぞれの祭りの勉強をしたりもします。

先日私は家族とともにユダヤ教のハヌカに参加してきました。アメリカに20年以上住んでいますが、ハヌカを経験するのは今回が初めてでした。招待してくれた友人はユダヤ人。奥さんは結婚にあたりユダヤ教に改宗し、一家でユダヤ系アメリカ人として暮らしています。

参加するにあたり予習を少ししました。油がなくて困った時のお祭りだから油が大事らしい…油で揚げる料理が出て、あとドーナツを食べる…油が大事？なぜドーナツ？なんだかさっぱりわかりません。頭の中にクエスチ



ョンマークをたくさんつけて、招待された家に行きました。

まずはディナーです。肉料理と、付け合わせの野菜。ラトケスとチャラー。

肉料理は、各家庭で伝えられているものが大体あるのでそれをつくります。通常はオーブンでローストした大きい牛肉を切り分けま。付け合わせの野菜は家庭により様々で、今回は玉ネギ、人参、ジャガイモ、カブ、ピーツ。油が尊ばれる祭りなので、すべてにオリーブオイルがかかっています。ラトケスは、ジャガイモをすりつぶしてパンケーキのようにし油で揚げたもの。サワークリームとアップルソースをかけて食べます。チャラーは縄編み形状のパンです。卵とバターをふんだんに使ってあるのでとてもリッチな味です。

ディナーの最中は、チャラーには美しいシルクの布がかかっています。ディナー終盤になると、その家のメインホスト（多くの場合はその家の母親）がお祭りの時にしか使わない飾り皿にパンを移し、ブレイクして皆で分け合います。

食事がひと段落ついたところで、ハヌカについてのレクチャーが始まりました。

ハヌカの起源は紀元前2世紀。当時、ギリシャ人に弾圧されていたイスラエルでユダヤ人が反乱を起こし、占拠されていたエルサレム神殿を奪回します。ギリシャ人たちは神殿を出て行く際に、燭台用油の壺を台無しにしていきました。が、1つだけ油の壺が汚されず残っていました。量は1日分がやっと。仕方なくそれで神殿を灯したところ、1日どころか8日間にわたって神殿の灯が続いたので



す。この奇跡を記念して行われるようになったのがハヌカです。ですから、別名「光の祭」とも呼ばれていて、油を尊ぶのです。

食事の後は祈りを捧げます。大人だけでなく子供も男性はキッパー（ユダヤ帽）をかぶります。ホストがハヌカ用の赤ワイン（神殿で分け合ったもの）を注いでヘブライ語で祈り、ワインを少しずつ皆で飲みます。今回は子供がいるのでグレープジュースでした。そして、メノラー（燭台）にロウソクを灯します。メノラーには8本のロウソクが立てられます。ハヌカ初日の夕食時に1本灯し、消さずに燃え尽きさせます。次の日には2本立て、また消さずにそのままにします。それを繰り返して最後には8本分を灯し、8日間の光の奇跡を再現するわけです。なお、メノラーはロウソクを9本立てられるようになっていますが、9つ目は種火用ロウソクを立てるのに使います。

これらのことがすべて終わったらデザートです。ハヌカではデザートも油を使ったものと決まっており、本来は、カラフルなデコレーションが施されたジャム入りドーナツのようなスフガニアを食べます。今回は、スフガニアに似たダンキン・ドーナツでした。

次は子供達の遊び「ドレイドル」の時間です。ドレイドルとは四角錐の駒で、これを回して出た「目（ヘブライ語の文字）」によって、金貨（代わりにドレイドル用のコインチョコ）をとり、最後に最も多くの金貨を集めた子供

が勝ちます。日本のお正月に、子供が部屋に集まってゲームをして遊ぶのと同じような雰囲気でした。

帰宅前には子供達がプレゼントをもらいました。プレゼントの習慣は最近のものらしく、「クリスマスでキリスト教徒の子供がプレゼントをもらう。僕にもちょうだい」的に始まったようです。ですから厳格なユダヤ教徒の家庭では、今でもプレゼントは一切ないようです。もちろん、私の子供たちは思いがけないプレゼントに非常に喜びました。

初めての経験となる祈りや、食べたことのない食事、見たことのない文字や遊びに、キッパーをかぶって家の中でもきちんと襟を正す男性たち—私のみならず子供たちにも、ハヌカでの様々な出来事が強い印象を与えたようです。家庭のぬくもりのある素晴らしいお祭りでした。

筆者紹介



宮川 良夫(みやがわ よしお)

United GIPs代表、弁理士・米国パテントエージェント

1956年 京都生まれ。1978年 同志社大学工学部卒業。1986年 弁理士登録、1997年 米国パテントエージェント登録。新樹グローバル・アイ

ピー特許業務法人を初めとして、世界7カ国（地域）にて8箇所の特許事務所設立、経営に携わる。1995年以来、ワシントンDCに滞在し、現職場はUnited IP Counselors, LLC。趣味は、Rock Creek Parkを有効利用した犬の散歩と子（孫？）育て。好きな言葉は「天地不仁」。